英語道弟子課程
弟子専用ウェブサイト
「世界レヴェルへの道」より

2018年9月9日
受講生にとっての「狭き門」、弟子にとっての「狭き門」

提出日：　2019年6月15日（土）

英語道弟子課程　弟子・H.K.

受講生にとっての「狭き門」、弟子にとっての「狭き門」

投稿日：2018年9月9日

完全個人指導で!!!

この人生に賦与された神の祝福。

英語道弟子課程は、「世界レヴェルの英知・美意識」構築具現を目指す、世界最高峰の学びの聖域です。

生井利幸の弟子を目指す受講生は、まずはじめに、生井利幸の英知の入口、即ち、英知に入るための「狭き門」(the narrow gate)から中に入ることが必要です。「弟子になる」ということは、「狭き門から入る」ということです。

本当の英知の道を行く。

貴かつ偉大な英知への「入口」のありかを教えて頂いている!! ということだ。

弟子になるための「狭き門」は、生井利幸の宇宙規模の英知の内側から見ると、実は、かなり「広い門」(the wide gate)です。その理由は、生井利幸の英知の中に入ると、前に進むにしたがって、その通り道は、次第に狭くなるからです。

「入り方」も同じ先生に教われる!!

ご指導の中で生き

ご指導を実行する。

第二の狭き門、第三の狭き門、第四の狭き門という如く、"超越的"学問としての生井利幸の正式神聖指導の範疇・枠組み」の中でより崇高なるステージに進んでいくには、目の前に見える「より狭い門」を通ることになります。「勉強が先に進むと、先にある門は、より狭くなる」、・・・「世界レヴェルの英知・美意識」構築具現を目指す弟子にとっては、必要不可欠な認識事項です。

すきまで 仕事、家事、睡眠

その間もご指導の中にいる。

本質論を述べると、「勉強すればするほどに師が遠くなる」という経験こそが、「絶対的真理、及び、本質に到達したい」と希求する弟子にとっては、基本となる経験です。勉強すればするほどに師が遠くなる、・・・正真正銘の本物の弟子は、この経験を介して、「英知の美しさ」を実感するようになります。

中身が無い＝本当のことがない。

外だけを取り繕う。

◆人間が経験する「2つの美」

1　上辺だけ、即ち、実体的本質が不存在で形をつくっている「美」
(虚像社会で平凡人が見る「美」)

「物」「物質」を崇拝している。

2　真理・本質から構成される「美」 ⇒ 中身から作り出す。
(虚像社会の上にあるガラスの天井を突き破れた人が見る「美」)

物質至上、資本主義社会。

本当のこと / 正しいこと があって → 美が生まれる (芸術! 学問!)

◆英語音声講義

⇒ A genuine disciple goes in through the narrow gate. (英語音声講義)

本物の弟子になるには? 「ゼロからやる!」

広い門は結局、破滅、崩壊。

行いが正しい人、正義の人は、狭い門から入る。
行いが正しくない人はいつも広い門、入りやすい門を探している。ゼロからやりなさい!!

補足： 先生はこの位置から直接下ろして下さっている! 何も分からない者に。

「学問の深遠さ」「真実の英知」「真実の学びの様相」を知らない人には、何年たっても、生井利幸が目の前の存在者との相互コミュニケーションのためにローカライズしているその地域的様相・姿しか見ることができません。つまり、「学問の深遠さ」を知らない人ほど、生井利幸が近く感じます。

浅いところでやっている

⇒ 知識欲。

超・自然的存在者は、かんな人間ではない

「感じる」とか「想像する」が無い!

私に必要なところ。

今となっては、生井利幸先生が近くにいるとは全く思わないが、先生がかなりローカライズし、「私のレヴェルに落としてくださっている」「合わせてくださっている」と、すごく感じる。私はそれに気づくのが遅く、大抵「後で」だ。

2019
6/9(日)

英語道弟子課程 弟子専用ページ「世界レヴェルへの道」

2018年9月9日

受講生にとっての「狭き門」、弟子にとっての「狭き門」

英語道弟子課程とは。

⇓

「世界レヴェルの英知・美意識」構築具現を目指す、
世界最高峰の学びの聖域である。

生井利幸先生の弟子を目指す受講生が、目指す入口とは。

⇓

「生井利幸先生の英知の入口」

英知に入るための「狭き門」(the narrow gate)
から中に入る必要がある

一般社会では決して
到達できない入口を
特別に教えて頂く。

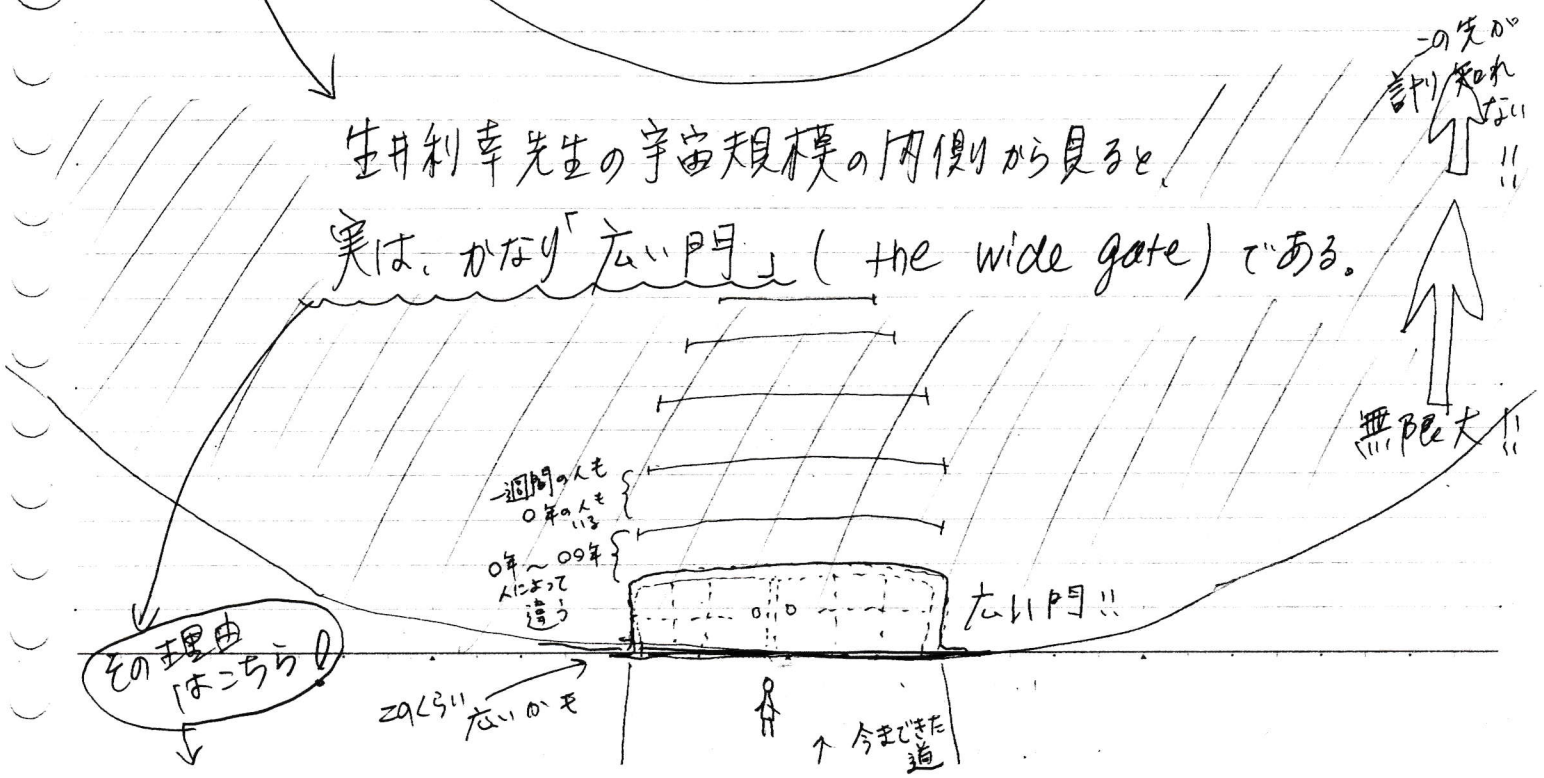
「弟子になる」=「狭き門から入る」ということ。

⇓

それまで理屈で
理解していた"狭き門"を、
弟子になると決意した人は、
実際に見せてもらえて、
目指すことができる!

生井利幸先生の宇宙規模の内側から見ると、

実は、かなり「広い門」(the wide gate)である。



Date

生井利幸先生の英知の入口に入る門が
実はかなり「広い門」(the wide gate)

理由

生井利幸先生の英知の中に入ると、前に進むにしたがって、
その通り道は次第に狭くなるから。

⇓

↓ 第二の狭き門

↓ 第三の狭き門

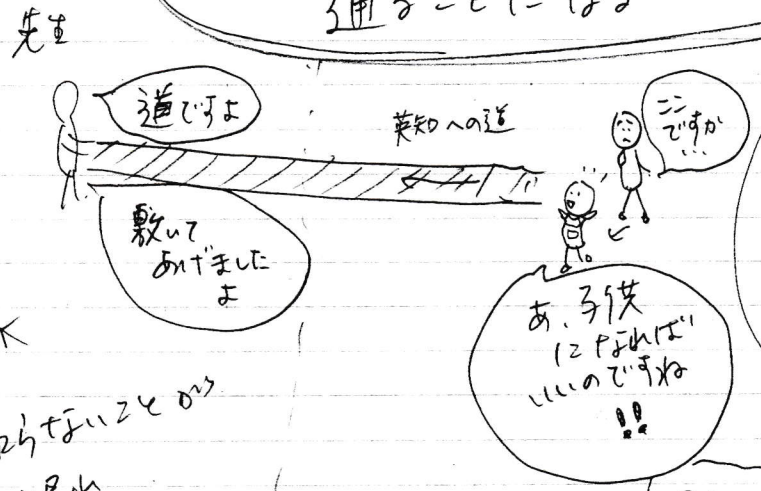
↓ 第四の狭き門

「"超越的"学問としての生井利幸先生の正式神聖指導の
範疇・枠組み」の中でより崇高なるステージに進んでいくには、

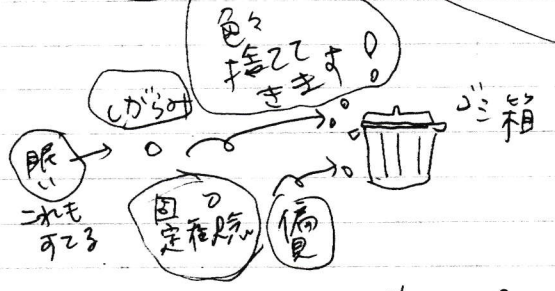
目の前に見える「より狭い門」を
通ることになる

⇦ ココ!

学習者にとって
とっても嬉しいこと!!
今までの「甘い自分」では
先生の英知に行けるわけない。
でもどうすればいいか、
と教え、さらに
導いていただけるから!



↖ 知らないことが
沢山
沢山
ある!!
脳の使い方、
先生の脳の
入口



⇦ 平凡人で人生を終える道を歩いてきた人に
降ってきた幸運。

Date

本質論

「勉強すればするほどに師が遠くなる」
という経験

⇓

これが必要!!

という
勉強していたら
わかる!!

絶対的真理、及び、本質に到達したい
と希求する弟子にとっては、基本となる
経験

耳で頭で聞いて、分かるだけでなく、
《自分が、やってやってやってやって、やり抜いて、それを実感すること!!》

「勉強すればするほどに師が遠くなる」

正真正銘の本物の弟子は、
この経験を介して、「英知の美しさ」を実感するようになる。

◆ 人間が経験する「2つの美」

1. 上辺だけ、即ち、実体的本質が不存在で
形をつくっている「美」
(虚像社会で平凡人が見る「美」)

一般社会は
本質が無い
ものしかない!!

2. 真理、本質から構成される「美」
(虚像社会の上にあるガラスの天井を突き破れた人が
見る「美」)

だから、学問、文化、芸術
がそれ!!

私は自分で自分を
甘やしたり
甘えているから
まだわからないのだ

でも今の一刹から
変わることができる!!

① 本質があって → 絵画 → 音楽 → 文化 → 学問

がっくり
外れている
!!

Date

◆ 英語音声講義

A genuine disciple goes in through the narrow gate.

(英語音声講義)

感じて、想像する
→ 自分に落とし込む

補足：「学問の深遠さ」「真実の英知」「真実の学びの様相」を知らない人には、何年たっても、生井利幸先生が目の前の存在者との相互コミュニケーションのためにローカライズしているその地域的様相、姿しか見ることができません。

つまり、「学問の深遠さ」を知らない人ほど、生井利幸先生が近く感じる。